

活動名	避難世帯における長期休みの子ども預かり事業	団体名称	特定非営利活動法人 やまがた絆の架け橋ネットワーク
		活動テーマ	子どもの健全な育成を支援する活動
		活動の目的	⑦自然災害で被災した子供を支援する活動
■活動結果（概要）		■実施スケジュール結果	■各スケジュールごとの活動内容
山形県内に避難を続けている東日本大震災の被災者（主に福島県からの自主避難者）世帯の子ども達を学童保育が休みになる、冬休み、春休み、夏休みの長期休みに預かりを行い、保護者が休みを取ったり、遅刻早退する負担を軽減すると共に、子ども達に対し、規則正しい生活を維持し、宿題をはじめとする学習補助、遊びを通じた人間関係の構築やしつけなどを行い、特殊な生活環境下にある子ども達の健全な育成に寄与する。		2017.10月中旬 11月上旬 12月上旬 12月下旬 2018.2月上旬 3月上旬 4月上旬 7月下旬 8月末	全体的な計画立案および冬休み預かりについて計画を作成 支援対象者に対し広報開始、学生ボランティアの募集開始 利用予定者を確定、学生ボランティアの体制確保 冬休み預かりを開始、毎日の利用者に加えスポットでの預かりも可とする 春休み預かりの計画を作成、支援対象者に対し広報開始 利用予定者を確定、学生ボランティアの体制確保 春休み預かり実施、予算変更し夏休みも実施する事とした 体制や手法に変更を加えず、夏休み預かりを実施 事業終了
■活動目標	山形県内に避難を続けている東日本大震災の被災者（主に福島県からの自主避難者）世帯の子ども達を、長期休みの際預かりを行い、保護者の終了の手助けをすると共に特殊な生活環境下にある子ども達の健全な育成に寄与する。		
■長期成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難生活という特殊な環境が子どもの成長に与える悪影響を少しでも解消する。</li> <li>・子どものために仕事を休む機会を減らすことで生活を安定させ、避難先への定住が帰還するか、安定した生活の元、安定した精神状態で判断出来るようにする。</li> </ul>		

## 活動風景



<朝の宿題タイム>  
毎朝計画にそって宿題を  
終わらせていきます。



<お昼ご飯・お弁当>  
お昼ご飯は弁当持参の日と  
拠点で提供する日があります。



<お手伝い・餃子作り>  
お昼ご飯の餃子作りをみんなで  
手伝いました。

■得られた成果と今後の課題	■受益者や地域社会の変化	■得られたノウハウの共有・発信
<p><b>(得られた成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の意見として、タクシーの送迎を導入したことで、送迎の負担が減ること、安心して子どもを預けられたこと、市内でも比較的広範囲をカバー出来たこと、などが高評価として得られた。そのため親が勤務中に抜け出して昼食を食べさせたりという手間がかからなくなり、勤務中でも安心して仕事に専念する事ができた、いつも断っていた残業に協力する事ができた、などの結果に繋がった。</li> <li>・親の就労環境を整えるという目的に対しては、継続した事業の実施を要望する家庭が多い事からも、一定の成果が上がったものと判断している。</li> </ul> <p><b>(今後の課題)</b></p> <p>一方で事業を今後継続していく場合、スタッフの確保や人件費の確保という所で課題が残る。また、仮に他の助成金を使ったとしてもタクシーの送迎が認められるケースが少なく、これらの要件を満たさずに事業を継続した場合、単なる子どもの預かりサービスになる可能性がある。継続する場合、子どもにつける専門のスタッフとタクシー送迎の実施が大きな課題と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のある家庭で、母親が子ども達にまともな食事を与えていない事が発覚、当団体スタッフが慎重に聞き取りを行った所、母親がうまく愛情を伝えられない状態であることが分かった。これらに対応するため、県社協相談員、市社協相談員、市子育て支援課、福島県駐在職員らと交えたケース会議を定期的開催し、ネグレクトに繋がりがかねない状況から救い出すことができた。</li> <li>・まだ完全な解決には至っていないが、生活環境が徐々に変化してきており、子ども達も明るさを取り戻している。今回の事業において、目的は親の就労環境を整えるための子どもの預かりだったが、副産物として上記の結果が得られた事は大きな成果であり、支援のあり方に変化をもたらすきっかけとなった。</li> <li>・また、これまでの支援する側の姿勢として、親（世帯主）に対するアプローチのみであり、子どもにヒアリングするのは、おそらく初めてのケースとなった。今後、避難者のサロンやイベントなどで、相談員が積極的に子ども達に声を掛けて様子を探るといった事が話し合われ、支援の形に大きな変化をもたらす事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の事業で、子どもの預かりを行う場合の必須要件や健康管理やアレルギーの確認など、普段何気なくスルーしてしまう事に対し、細かい所まで気を配るなど多くのノウハウを得ることができた。</li> <li>また、生活環境を知るために子どもに対して声がけし、異常が起こっていないか判断するきっかけにする方法も、一つの接し方として確立し、山形県内の社協相談員が集まる定例会で、ノウハウの共有がなされている。</li> <li>・今後地域の子育て団体や子ども食堂の団体などと交流を深め、このようなノウハウの共有、また新たな側面からのノウハウの学習などを行ってきたい。</li> <li>・今回の事業で得られた成果や課題は、当団体のHPにまとめを掲載し情報発信して行きたい。</li> </ul>

〒991-8501

(住所) 山形県寒河江市大字西根字石川西355村山総合支庁西庁舎附属棟

(団体名) 特定非営利活動法人やまがた絆の架け橋ネットワーク

(ホームページ) : <http://kakehasi.jpn.org/>

助成金額 500,000円

助成期間

H29.9.1~H30.8.31

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。